

しがけんしょうがいしゃぶんかげいじゅつかつどうすいしんけいかく
滋賀県障害者文化芸術活動推進計画

だい じ
(第2次)

ばん
～わかりやすい版～

れいわ ねん がつ
令和6年3月

し が けん
滋賀県

その1

しがけんしょうがいしゃぶんかげいじゅつかつどうすいしんけいかく
滋賀県障害者文化芸術活動推進計画って、なに？

けいかく もくてき きかん せつめい
計画の目的や 期間などについて、説明します。

その2

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつかつどう
障害のある人の どれくらいの人が 文化芸術活動をしているの？

けんない しょうがいしゃせつ ぶんかげいじゅつ かつどう ようす せつめい
県内の 障害者施設の 文化芸術の活動の 様子などを 説明します。

その3

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう
障害のある人の 文化芸術の活動のために、なにをしたの？

しがけん とく せつめい
滋賀県が これまでに 取り組んできたこと、これから 取り組まなければいけないことを 説明します。

その4

しがけんしょうがいしゃぶんかげいじゅつかつどうすいしんけいかく だい じ もくひょう
滋賀県障害者文化芸術活動推進計画（第2次）の目標って、なに？

しがけん もくひょう たいせつ かんが かつ せつめい
滋賀県が 目標にすることと 大切な考え方を 説明します。

その5

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう
障害のある人の 文化芸術の活動のために、これから なにをするの？

しがけん だいじ とく もくひょう すうじ せつめい
滋賀県が 大事にすること、これから 取り組むこと、 目標とする数字について、説明します。

その6

けいかく すす
計画を進めるために、なにをするの？

けいかく すす しがけん ぶんかしせつ いっしょ とく せつめい
これから 計画を進めるために、滋賀県が 文化施設などと 一緒に 取り組むことについて 説明します。

しがけんしょうがいしゃぶんかげいじゅつかつどうすいしんけいかく 滋賀県障害者文化芸術活動推進計画って、なに？

けいかく つく り ゆう 計画を作る理由

しがけん けんみん ぶんかげいじゅつ たの と く
滋賀県では、すべての県民が、文化芸術を楽しめるように いろいろ取り組んでいます。

ぶんかげいじゅつ かつどう ささ しょうがい ひと しゃかい と く
また文化芸術の活動を 支えることで、障害のある人の やりたいことや 社会とつながることに 取り組んでいます。

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう おこな きょうせいしゃかい じつげん けいかく つく
障害のある人が 文化芸術の活動を行うことによって、共生社会※1の実現のため、計画を作ります。

きょうせいしゃかい しょうがい たが たが あ たいせつ あ いっしょ い しゃかい
※1 共生社会とは、障害のあるなしに かかわらず、お互いがお互いを わかり合い、大切にしながら 一緒に生きていく 社会のこと。

けいかく きかん 計画の期間

れいわ ねんど ねんど れいわ ねんど ねんど ねんかん けいかく
令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間の計画です。

しょうがい ひと ていぎ 障害のある人の定義※2

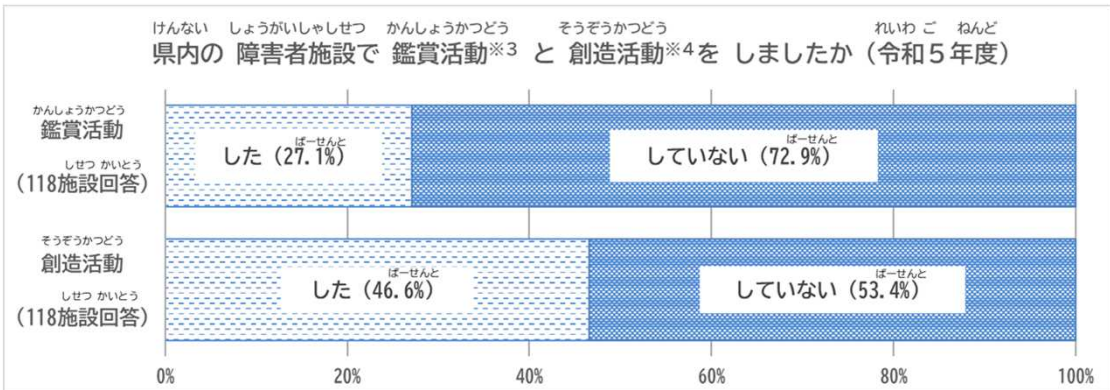
しょうがいしゃてちょう も ひと
「障害者手帳」を持っている人の ことだけではありません。

しんたいしょうがい ひと ちてきしょうがい ひと せいしんしょうがい ひと はったつしょうがい ひと なんびょう ところ からだ
身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人、発達障害のある人、難病などにより心や体のはたらき
しょうがい ひと しょうがい しゃかい なか ばり あ しゃかいてきしょうへき にちじょうせいかつ しゃかいせいかつ そうどう せいげん
に障害がある人で、障害および社会の中にあるバリア（社会的障壁）によって、日常生活や社会生活に相当な制限
う ひと
を受けているすべての人のこと。

ていぎ けいかく ことば いみ き
※2 定義とは、この計画でつかう 言葉の意味を 決めること。

しょうがいひと ぶんかげいじゅつかつどう ぶんかげいじゅつかつどう 障害のある人の どれくらいの方が 文化芸術活動を しているの？

しょうがいしゃしせつ ぶんかげいじゅつかつどう ようす 障害者施設の 文化芸術活動の 様子



さんこう しょうがふくし さーび すじぎょうしょ ぶんかげいじゅつかつどう とりくみじょうきょうちようさけつが
【参考】障害福祉サービス事業所における 文化芸術活動の 取組状況調査結果

けんない はんぶんいじょう しょうがいしゃしせつ かんしょうかつどう そうぞうかつどう
県内の 半分以上の 障害者施設が、鑑賞活動や 創造活動を
していません。

かんしょうかつどう げきじょう ぶたい み おんがく き
※3 鑑賞活動とは、劇場などで、舞台を観たり、音楽を 聴くこと。

そうぞうかつどう え か がつき えんそう
※4 創造活動とは、絵を描いたり、楽器を 演奏すること。

しんがた ころな うい る すかんせんしょう えいきょう 新型コロナウイルス感染症の 影響

- てんらんかい えんそうかい えんき ぶんかげいじゅつかつどう
・ 展覧会や 演奏会が 延期され、文化芸術活動を
おこな
行うことが むずかしくなりました。
- ひと あつ さ こうえん らいぶ はいしん
・ 人が 集まることを 避けるため、公演のライブ配信
などが 始まり、お家でも、文化芸術を 楽しむことが
できるようになりましたが、美術館や劇場で、
じっさい み たいけん ぶたい で ひと
実際に観たり、体験することや舞台に出る人と
きゃく いったいかん じゅうよう かくにん
お客さんとの 一体感が 重要だと 確認されました。
- ぶんかげいじゅつ かんどう ところ やす
・ また、文化芸術は 感動や 心の 安らぎをもたらし、
にんげん い ひつよう
人間が 生きるために 必要なものです。

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう 障害のある人の 文化芸術の活動のために、なにをしたの？

これまで ^{しがけん と く} 滋賀県が取り組んだこと

- ^{しゅわつうやく じまく つ} 手話通訳や ^{しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ} 字幕を付けるなど、障害のある人の ^{かんしょう たす まーく つく} 文化芸術の鑑賞を助けるマークを作りました。
- ^{しょうがい ひと さくひん てんらんかい} 障害のある人が ^{とあーとてん かいさい} つくった作品の 展覧会（ぴかつtoアート展）を ^{かいさい} 開催しました。
- ^{しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう} 障害のある人の ^{そうだん あいさ かつどう たす} 文化芸術の活動についての 相談（アイサの活動）を ^{かいさい} 助けてました。
- ^{しまち ぶんかかせつ だれ たの ぶんかげいじゅつぱろぐらむ} 市町の ^{かいさい} 文化施設で、誰もが ^{かいさい} 楽しめる ^{かいさい} 文化芸術プログラムを ^{かいさい} 開催しました。
- ^{しがけんりつげいじゅつげきじょうびわこほーる} 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで、^{ぱりあふりーろうどくげき} バリアフリー朗読劇※5を ^{かいさい} 開催しました。
- ^{しがけんりつびじゅつかん ろびー あーる ぶりゅっと} 滋賀県立美術館の ^{しがらきやき さくひん ふくししせつ しょうかい} ロビーで、^{かいさい} アール・ブリュット※6と ^{かいさい} 信楽焼の作品や ^{かいさい} 福祉施設を ^{かいさい} 紹介しました。

かんしょう たす まーく れい
【鑑賞を 助ける マークの例】



うけつけ ひつだん
受付で筆談します。



じまく
字幕があります。



ひ ありんぐ るー ぶせき
ヒアリンググループ席
があります。



とあーとてん ようす
ぴかつtoアート展の様子



ぱりあふりーろうどくげき ようす
バリアフリー朗読劇の様子
(写真：守屋友樹)



しがけんりつびじゅつかん ようす
滋賀県立美術館の様子

※5 ^{ぱりあふりーろうどくげき} バリアフリー朗読劇とは、^{げき はじ まえ} 劇が始まる前に、^{てんじ ぱんふれっと} 点字のパンフレットを配り、^{くば} 劇の間は、^{げき あいだ} スクリーンに ^{すくりーん} セリフ ^{せりふ} をうつすなど、^{しょうがい ひと ひと たの} 障害のある人もない人も ^{くふう ろうどくげき} 楽しめるように ^{くふう} 工夫した ^{ろうどくげき} 朗読劇のこと。

[けんりつびじゅつかん あつ](#)
[県立美術館で集めている](#)
[あーる ぶりゅっと さくひん](#)
[アール・ブリュット作品](#)

※6 ^{あーる ぶりゅっと} アール・ブリュットとは、^{げいじゅつ きょういく う} 芸術の教育を ^{ひと} 受けていない人たちによって ^{どくじ ひょうげん さくひん} つくられた ^{どくじ} 独自の表現の ^{さくひん} 作品のこと。

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう 障害のある人の 文化芸術の活動のために、なにをしたの？

これから しがけん と く 滋賀県が 取り組まなければ いけないこと

- しょうがい ひと み たの ぶんかげいじゅつぷろぐらむ すく
・ 障害のある人が 観て楽しめる 文化芸術プログラムが 少ないので、
- しょうがい ひと かんしょう ひつよう
障害のある人が 鑑賞できるように することが必要です。
- しょうがい ひと さくひん はっぴょう ばしょ すく
・ 障害のある人が 作品をつくったり、発表したりする 場所が少ないので、
- きかい ひつよう
その機会を つくる必要があります。

- しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう とお しょうがい りかい
・ 障害のある人の 文化芸術の活動を 通して、障害を 理解することが
- ひつよう
必要です。
- しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ みりよく きづ かち し ひつよう
・ 障害のある人の 文化芸術の 魅力に気づき、価値を知ることが必要です。

- しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう ささ ひと そだ ひつよう
・ 障害のある人の 文化芸術の活動を 支える人を 育てることが 必要です。
- しょうがい ひと いけん き ぶんかげいじゅつぷろぐらむ おこな
・ 障害のある人の 意見を聴きながら、文化芸術プログラムを 行うことが
- ひつよう
必要です。

これから だいじ 大事にすること

した 親しむ
いんくるーしぶ
インクルーシブな
ぶんかげいじゅつ すいしん
文化芸術の推進

つながる

ぶんかげいじゅつかつどう とお
文化芸術活動を通した
しゃかいさんか そくしん
社会参加の促進

ささ 支える
ちいき しょうがいしゃ
地域の障害者

ぶんかげいじゅつ すいしん
文化芸術の推進

大切な考え方
子ども・子ども・子ども

しがけんしょうがいしゃぶんかげいじゅつかつどうすいしんけいかく だい じ もくひょう 滋賀県障害者文化芸術活動推進計画（第2次）の目標って、なに？

しがけん しょうがい ひと ぶんかげいじゅつかつどう すす もくひょう た
滋賀県は、障害のある人の文化芸術活動が 進むため、目標を 立てました。

とりくみし おこな たいせつ かんが かつ き
また、取組を 行うときに、大切に考える考え方を 決めました。

もくひょう 目標

だれ じぶん ぶんかげいじゅつ した ひと ひと しが
誰もが 自分らしく 文化芸術に 親しみ、人と人が つながる滋賀

しょうがい ひと ひと ぶんかげいじゅつ たの かんきょう ぶんかげいじゅつ かつどう ささ ひと
障害のある人もない人も、文化芸術を 楽しめる環境や、文化芸術の活動を 支える人をつくります。

しょうがい りかい ひと ひと しが めざ
また、障害を理解し、人と人が つながる滋賀を 目指します。

たいせつ かんが かつ 大切な考え方

こ こ こ 子ども・子ども・子ども

ぶんかげいじゅつ にんげん にんげん い うえ たいせつ こ せいちょう みらい じゅうよう
文化芸術は、人間が 人間らしく 生きる上で 大切なものであり、子どもの成長や未来にとって、とても重要です。

しょうがい こ しょうがい こ こうりゅう たが そんなあ たいせつ まな
また、障害のある子どもと 障害のない子どもの 交流は、お互いを 尊重し合う 大切さを 学ぶことができ、

きょうせいしゃかいじつげん しょうがい こ ぶんかげいじゅつ つう
共生社会の実現に つながります。そのため、障害のあるなしに かかわらず、子どもたちが 文化芸術を通じた

ゆた ところ はぐく とりくみ つづ
つながりを持ち、豊かな心を 育めるよう 取組を続けていきます。

障害のある人の 文化芸術の活動のために、これから なにをするの？

しがけん もくひょう たっせい みつつ だいじ とりくみ おこな
滋賀県は、目標を 達成するため、3つのことを 大事にしながら、取組を 行います。

1 親しむ (インクルーシブ※7な 文化芸術を 進める)

だいじ 大事にすること

しょうがい ひと ひと ひと ぶんかげいじゆつ たの けんり
障害のある人もない人も、すべての人に 文化芸術を 楽しむ権利が あります。

だれ ひと じぶん ぶんかげいじゆつ たの でじたるぎじゆつ つか ごうりてきはりよ ていきょう
誰もが等しく 自分らしく 文化芸術を 楽しめるよう、デジタル技術※8 を 使いながら、合理的配慮を提供し、

かんしょうさぽーと いんくるーしぶ ぶんかげいじゆつ すす
鑑賞サポートをするなど、インクルーシブな 文化芸術を 進めます。

ごうりてきはりよ ていきょう れい
※合理的配慮の提供の 例



だんさ とお
段差で通れないときに、スロープを付ける



するーぷ つ
スロープを付ける



ちょうかく しょうがい ひと しゅわ ひつだん たいおう
聴覚に 障害のある人に、手話や筆談で対応する

かんしょうさぽーと れい
※鑑賞サポートの 例



じまくめがね つ かんしょう
字幕メガネを付けた鑑賞

※7 インクルーシブな 文化芸術とは、しょうがい ひと くにこく ねんれい ちが みと だれ たの ぶんかげいじゆつ
障害のあるなしや 国籍、年齢などの 違いを 認め、誰もが 楽しめる 文化芸術のこと。

※8 デジタル技術とは、でじたるぎじゆつ こんぴゆーたー じぶん が 学ぶことができる AI (人口知能) などの 新たな技術のこと。

しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ かつどう
障害のある人の 文化芸術の活動のために、これから なにをするの？

した いんくるーし ぶんかげいじゆつ すす
1 親しむ (インクルーシブな 文化芸術を 進める)

もくひょう すうじ
目標の数字

こうもく 項目	さくていじ 策定時	もくひょうち れいわ ねんど 目標値 (令和10年度)
しょうがいしゃあーとこうぼてん と あーとてん おうほ にんずう 障害者アート公募展 (ぴかつtoアート展) に 応募した人数	にん 285人	にん 300人
ぶんかげいじゆつ かつどう かんきょう ととの おも しょうがい ひと わりあい 文化芸術の活動が できる環境が 整っていると思う 障害のある人の割合	—	ばーせんと 50%
しがけん いっしょ かんしょうさぽーと おこな しょうがい ひと ひと たの 滋賀県と一緒に、鑑賞サポートを行うなど 障害のある人もない人も楽しめる ぶんかげいじゆつぷろぐらむ と く しまちすう 文化芸術プログラムに 取り組んだことがある市町数	し 5市	しまち 10市町

とりくみ れい
取組の例

- (1) しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ さくひん かんしょう
 障害のある人が 文化芸術の作品を 鑑賞するために
 - しょうがい ひと かんしょう ごうりてきはいいりよ ていきょう
 ・ 障害のある人が 鑑賞するときに、合理的配慮を 提供します。
- (2) しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ さくひん
 障害のある人が 文化芸術の作品を つくるために
 - しがけんりつびじゆつかん がっこう こ あーと たの つた
 ・ 滋賀県立美術館や 学校などで、子どもたちに アートやものづくりの 楽しさを 伝えます。
- (3) しょうがい ひと さくひん はっぴょう
 障害のある人が つくった作品を 発表するために
 - しょうがい ひと さくひん こうぼてん と あーとてん かいさい
 ・ 障害のある人の作品の 公募展 (ぴかつtoアート展) を 開催します。



ちゃ たいけん ようす
 お茶をたてる体験の様子

2 つながる (文化芸術の活動を通して 社会と つながることを 助ける)

だいじ
 大事にすること

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ かつどう じぶん こせい い じしん
 障害のある人が 文化芸術の活動をすると、自分の個性を生かし 自信につながります。

まわ ひと しょうがい こせい とくい きづ
 また、周りの人に 障害のある人の個性や得意なことを気付かせます。

しょうがい ひと ひと たいどう ぶんかげいじゅつ かつどう とお しゃかい たす
 障害のある人とない人が 対等に つながれるよう、文化芸術の活動を通して 社会と つながることを 助けます。

もくひょう すうじ
 目標の数字

こうもく 項目	さくていじ 策定時	もくひょうち れいわ ねんど 目標値 (令和10年度)
しがけんげいじゅつぶんかさい さん かじぎょう ふく しょうがい ひと 滋賀県芸術文化祭※9 (参加事業※10含む) のうち、障害のある人の ぶんかげいじゅつ かつどう はっぴょう ぶろぐらむ み き ひと かず 文化芸術の活動を 発表した プログラムを 観に来た人の数	—	10,000人

※9 しがけんげいじゅつぶんかさい しょうがい ひと ひと ぶんかげいじゅつ さくひん はっぴょう かんしょう いべんと
 滋賀県芸術文化祭とは、障害のある人もない人も、みなさんがつくった文化芸術の作品を発表したり、鑑賞したりできるイベントのこと。

しがけんしゃしんてらんかい しがけんぶんがくさい しがけんびじゅつてらんかい ぶたいげいじゅつ かんしょう おーぷにんぐいべんと
 「滋賀県写真展覧会」「滋賀県文学祭」「滋賀県美術展覧会」や 舞台芸術を 鑑賞できる オープニングイベントがあります。

※10 しがけんげいじゅつぶんかさいさんかじぎょう しがけん かん じっし ぶんかげいじゅつイベント
 滋賀県芸術文化祭参加事業とは、滋賀県のみなさんが 考えて、実施する 文化芸術イベントのこと。

しがけんげいじゅつぶんかさい いっしょ の ばんふれっと つく しがけんぜんたい ぶんかげいじゅつ イベント も あ
 滋賀県芸術文化祭と一緒に載った、パンフレットを作って、滋賀県全体で、文化芸術のイベントを 盛り上げています。

2 つながる (文化芸術の活動を通して 社会と つながることを 助ける)

とりくみ れい 取組の例

(1) しょうがい りかい 障害のことを もっと理解するために

- しょうがい ひと ぶんかげいじゅつかつどう ささ けんみん しょうがい りかい ふか
障害のある人の 文化芸術活動を 支え、県民の 障害への 理解を 深めます。
- しょうがい ひと さくひん みりよく つた ほてる りよかん さくひん ふくし しせつ
障害のある人が つくった 作品の魅力を 伝えるため、ホテルや旅館などで、作品と 福祉施設の
しょうがい
紹介をします。
- しが かがや こくす ぼ しょうす ぼ おおさか かんさいばんぱく とお しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ さくひん
わたSHIGA輝く国スポ・障スポや 大阪・関西万博を 通して、障害のある人の 文化芸術作品を
けんない ひと けんがい ひと しょうがい とりくみ かんが
県内の人、県外の人に 紹介する取組を 考えます。

(2) しょうがい ひと と く ぶんかげいじゅつ つた 障害のある人が 取り組む 文化芸術の すばらしさを 伝えるために

- しょうがい ひと さくひん はんぱいほうほう しら ひつよう とりくみ かんが
障害のある人がつくる すばらしい作品の 販売方法などを調べ、必要な取組を 考えます。
- しょうがい ひと ひと たの しがけんげいじゅつぶんかさい かいさい
障害のある人もない人も 楽しめる 滋賀県芸術文化祭を 開催します。



ほてる りよかん しょうがい ひと さくひん てんじ ようす
ホテルや旅館などで、障害のある人の作品が展示されている様子



しがけんげいじゅつぶんかさいおーびにんくいべんと ようす
滋賀県芸術文化祭オープニングイベントの様子

3 ささ ちいき しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ すす
 支える (地域の 障害のある人の 文化芸術を 進める)

だいじ
 大事にすること

しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ かつどう がっこう ふくししせつ ひと かか
 障害のある人の 文化芸術の活動は、学校や 福祉施設など、たくさんの人が 関わっています。

しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ かつどう ささ ちいき しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ すす
 障害のある人の 文化芸術の活動を 支えられるよう、地域の 障害のある人の 文化芸術を 進めます。

もくひょう すうじ
 目標の数字

こうもく 項目	さくていじ 策定時	もくひょうち れいわ ねんど 目標値 (令和10年度)
しがけんげいじゆつぶんかさいさんかじぎょう 滋賀県芸術文化祭参加事業のうち、しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ かつどう 障害のある人の 文化芸術の活動を はっぴょう い べ ん と かず 発表した イベントの数	じぎょう 4 事業	じぎょう 20 事業

とりくみ れい
 取組の例

しょうがいしゃ ひと ぶんかげいじゆつ ささ しく
 (1) 障害のある人の 文化芸術を 支える仕組みづくりのために

- しょうがい ひと あんしん ぶんかげいじゆつ かつどう かんきょう
 ・ 障害のある人が 安心して 文化芸術の活動が できるよう、環境をつくれます。

ちいき しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ かつどう とく つづ
 (2) 地域が 障害のある人の 文化芸術の活動に 取り組み続けるために

- しょうがい ひと ぶんかげいじゆつ たの しまち いっしょ とく
 ・ 障害のある人が 文化芸術を 楽しめるよう、市町と 一緒に 取り組みます。



ぶんかげいじゆつ かつどう そうだん
 文化芸術の活動について相談できるところ

けいかく すす 計画を進めるために、なにをするの？

きょうりよく いっしょ と く 協力して 一緒に 取り組むこと

しょうがい ひと ぶんかげいじゅつ すす しがけん ぶんかしせつ ふくししせつ きょうりよく いっしょ と く
障害のある人の 文化芸術を 進めるため、滋賀県は、文化施設、福祉施設などと 協力して、一緒に 取り組みます。

た その他のこと

まいとし けいかく か しら
毎年、この計画に 書いてあることが きちんとできているか、できていないことは どんなことかなどを調べて、
けいかく か ないよう はな あ ひつよう とりくみ おこな
この計画に 書いてある 内容について 話し合い、必要な 取組を 行います。

しょうがい ひと ひと だれ じぶん
障害のある人もない人も、誰もが 自分らしく
ぶんかげいじゅつ した ひと ひと し が
文化芸術に 親しみ、人と人が つながる滋賀
め ざ とりくみ すす
を目指して、取組を 進めていきます。